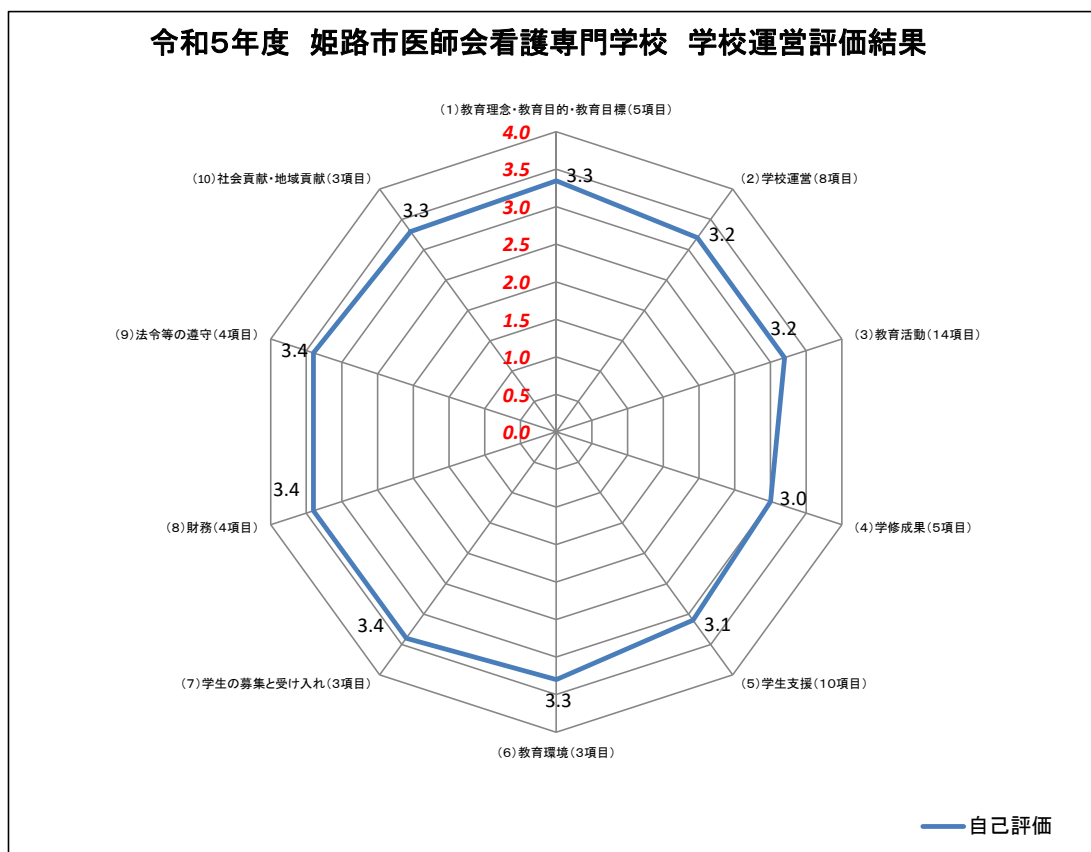


学校評価（自己評価・学校関係者評価）

1 学校運営評価結果（令和5年度）

評価項目	自己評価
(1) 教育理念・教育目的・教育目標(5項目)	3.3
(2) 学校運営(8項目)	3.2
(3) 教育活動(14項目)	3.3
(4) 学修成果(5項目)	3.0
(5) 学生支援(10項目)	3.1
(6) 教育環境(3項目)	3.2
(7) 学生の募集と受け入れ(3項目)	3.5
(8) 財務(4項目)	3.1
(9) 法令等の遵守(4項目)	3.6
(10) 社会貢献・地域貢献(3項目)	3.3
平均	3.3



2 授業評価結果（令和5年度）

学生による授業評価アンケートにより17項目について4段階評価
(旧カリキュラム)

【統合分野】 3 講師 各項目 3.6～4.0

(新カリキュラム)

【基礎分野】 11 講師 各項目 3.3～4.0

【専門基礎分野】 41 講師 各項目 3.2～4.0

【専門分野】 63 講師 各項目 2.7～4.0

3 学校関係者評価

令和6年4月18日(木)に、学校関係者評価委員会(教育関係者、実習病院関係者、卒業生、地域住民で構成)を開催し、令和5年度自己評価や授業評価結果に関して意見を聴取した。

(主な意見)

- ・今年から大学でシラバスに予習復習の確認のチェックを入れることとなったが、看護専門学校の取扱はどうなのか。詳しい講義予定を作って予習・復習を徹底させれば学修効果があがると思うので検討してはどうか。
- ・広報活動ではホームページが重要で、講師陣の情報や学校のビジョンやカラー、地元就職の強み等を打ち出していくべき。また、閲覧対象の項目やブログの統計や専門学校のメリットをアピールして差別化を図るべき。
- ・教員の入れ替わりが多かったことで、教員の教育体制等を充実させ、離職防止にも努めるべきである。
- ・地域社会貢献の観点から災害時の拠点としてできうることを検討いただきたい。
- ・授業への興味関心、視線が少なくなっており、自身の体験談や質問コーナーを設ける等工夫しているが、効果が余りない。しかし筆記試験や課題は意外と対応してくるので、潜在能力を引き出す努力が必要である。
- ・学生募集等改善点もあるが、医師の講師確保が難しくなっており、事務や教職員の負担が増えている。医師会も会員確保に苦勞する時代になっており、医師会立の看護学校を維持していくため課題になっており、お知恵を借りたい。

4 今後の改善方策

- ・本校の理念、教育目標等の具体的な実現については、3つのポリシーを令和6年度上期中の策定に取り組む。
- ・少子化等を背景とした学校の中長期的な将来構想については、少子化の進展、大学志向傾向の顕在化を背景に基礎看護教育の動向や社会経済情

勢を踏まえ、将来構想の検討を進めていく。

- 学校運営業務の ICT を活用したシステム化による業務の合理化については、学生の学籍管理等の学校運営業務においてシステム化等による業務の効率化を進めていく。
- 教員の確保については、正職員に加え、常勤臨時等多様な職制の人材の確保により、教員体制の維持に努める。
- 教員の資質向上の取組については、業務経験者や能力を有する教員の採用に取り組むとともに、教員のキャリア支援に引き続き取り組んでいく。
- 看護師国家試験の合格率の向上策については、試験結果を分析するとともに、分析結果を基に受験対策を検証し、対策の見直し、充実等の対策を講じる。
- 成績低迷者の増加については、履修評価結果や面接等により学習状況を的確に把握し、効果的な個別支援に取り組んでいく。
- メンタル問題等による休学者や退学者の抑制については、スクールカウンセラーの活用や保護者との連携を充実させていく。
- 卒業生への支援体制については、卒業生が来校する機会や相談窓口の設置、支援内容についてホームページ等で周知していく。
- 健康診断実施後の有所見者のフォローについては、健康診断有所見者のフォロー体制を見直す。
- 課外活動への支援体制については、課外活動の支援体制を構築していく。
- 施設設備の老朽化に伴う大規模改修については、空調設備等の更新に必要な経費について、令和 6 年度姫路市予算において補助金が措置され、円滑かつ着実に改修工事に取り組む。その他の改修についても予算確保に向け、姫路市に引き続き協議を行っていく。
- 令和 6 年に新カリキュラムに導入された国際的視野の育成について、国際的視野の育成について教育体制の構築に取り組む。
- 今後、更に学生の確保や質の担保が困難になることが懸念されることについては、令和 6 年度入学生の確保に向け、オープンキャンパスや学校見学会の回数、学校訪問対象校を増やす等学生募集活動の充実を図るとともに、入試制度においても学校推薦型選抜で従前からの公募制に加え、新たに指定校制を導入した。またホームページで学校行事の状況等を頻繁に掲載する等の広報活動の充実を努めてきた。今後も学生募集活動の充実や入試制度の見直し、効果的な広報活動の実施等、学生確保に資する取り組みを積極的に行っていく。なお経済的に困窮している学生への支援措置には対応済である。
- 学校の財務状況は構造的な収支赤字であり、特に最近の光熱水費の高騰や物価高により赤字幅が増加傾向であることについては、令和 6 年度入学生から、さらに令和 7 年度入学生からそれぞれ授業料月額増額改定

を実施することとしている。これらに加えて経費削減にも努めていく。

- 自己評価の実施による問題点や課題の改善が進んでいないことについては、自己評価結果や学校関係者評価委員会での意見を踏まえ、改善に取り組んでいく。なお令和5年度学校関係者評価委員会での意見を踏まえ、入試制度の改善や新たな地域貢献事業に取り組むこととするとともに、個人情報保護規程、懲戒規程の整備に取り組んだ。
- 学生へのハラスメント対策については、令和6年度中にハラスメント対策に係るガイドラインの策定に取り組む。
- 社会、地域貢献活動の実施については、要請を受けたボランティア以外のボランティア活動についても、計画的な参加を促進していく。なお令和5年度に地元中学生の「トライやるウィーク」の受け入れを実施。今後も積極的な受け入れに取り組んでいく